

日時 平成18年6月10日(土)

14:00~16:30

場所 岡山大学教育学部講義棟5101室

司会進行 岡山市立東山中学校教諭 小野 大

① 算数の学力診断調査の結果について(中間報告)

第1学年~第6学年:「数と計算」

特徴的な傾向について

＜算数学力診断調査プロジェクト委員＞

第2学年:鈴木隆幸(附属小学校教諭)

第3学年:森金永二(附属小学校教諭)

第4学年:杉能道明(附属小学校教諭)

第5学年:圓井大介(岡山市立鹿田小学校教諭)

第6学年:糸島耕太郎(総社市立常磐小学校教諭)

② 数学の学力診断調査の結果について(中間報告)

第1学年~第3学年:「数量関係」

特徴的な傾向について

＜中学校数学学力診断調査プロジェクト委員＞

第1学年:宇津見雅英(瀬戸内市立長船中学校教諭)

第2学年:秋山真(岡山市立東山中学校教諭)

第3学年:木村善生(附属中学校教諭)

＜概要＞

私たちは、平成10年告示の学習指導要領で算数・数学の学力低下が起こるのではないかと危惧し、岡山大学算数・数学教育学会会員の協力を得て、算数・数学の学力診断調査をしてきました。

今回は、新学習指導要領の下での算数・数学指導で、本当に算数・数学の学力がついているのかどうかを平成17年に算数・数学の学力診断調査をした結果をもとに、中間報告したいと考えました。

算数・数学学力診断調査の結果については、まだ集計途中のため、中間報告という形で発表されました。

算数の学力診断調査については、「達成率が高い指導内容」と「達成率が気がかりな指導内容」に分けて発表され、全体の特徴としては、「数構成」「計算技能」は達成率が高いが、「数の相対的な見方」「計算の仕方」「見積もり」などの内容について達成率が低かったようです。

数学の学力診断調査については、「前回の学力診断調査に比べて全体的に達成率が下がっている」というショッキングな内容でした。「達成率が高い内容」と「達成率が気がかりな内容」に分けて発表され、特徴的には、「グラフの知識」「グラフの特徴」は達成率が高いが、「変化の割合をとらえること」「式をつくること」「問題場面を関数ととらえること」などの内容について達成率が低かったようです。

尚、全数を集計後の特徴的な傾向については、本号(バピルス13号)に掲載されています。

(杉能 道明)